

ハイブリッドワークで生まれる、“知らない”をなくす

提案する新しい職場の姿

スキル情報を顔・姿と合わせて表示

トランザクティブ・メモリーの形成を促進
同僚がどんな人なのか“知らない”を無くす

Google Analyticsを利用した数値測定

CAD、CAMを用いた機械設計プロジェクト

360度カメラ

オフィスの状況についての情報格差の解消
リモートワーカーの“知らない”を無くす

ホログラムでリモートワーカーを表示

存在感を出すことでコミュニケーションを促進
オフィスワーカーの“知らない”を無くす

前提

オフィスワークとリモートワークが同じ職場に混在する
ハイブリッドワークが主流になると想定

デプスインタビュー

テーマ「ハイブリッドワークにおけるコミュニケーション」

- ・1名あたり1時間
- ・従業員15名（うち管理職3名）

2体のペルソナ作成



目指す姿

ハイブリッドワーク環境であっても、偶発的な会話や
同じ場で働いている感覚が生じることにより、
相互理解や自然に助け合える関係が構築される職場

解決すべき課題

- ・ハイブリッドワークにおける情報の格差
- ・トランザクティブ・メモリー（誰が何を知っているかを認識すること）の形成阻害

ユーザーテスト（12名の参加者）

ハイブリッドワークにおける情報格差の影響度検証

伝聞形式（直接聞く/又聞き）による、情報理解度の差を検証（※1）



※1:テスト実施方法

考察：ディスカッション等の高度なコミュニケーションに大きな影響

360度カメラによる状況把握の効果検証

360度カメラで撮影した動画により、状況を把握できるか検証
⇒用意したイベントのうち、平均82%把握できることを確認

考察：頻繁なコミュニケーションが求められる職場でより有効

スキル表示による情報認知の効果検証

ホログラム（※2）に顔と並んで表示されたスキルが認知できるか検証



※2:ホログラム

考察：コミュニケーションを阻害することなくスキルの認知が可能